

## 発想の転換も必要です。固定観念にアタック!

先日、ある体育科の若手教師と話をしていて、面白い話を聞かせてもらいましたので、それを紹介します。

バレーボールの授業についての話です。「バレーボールの授業で学習する順番は？」と聞かれたら、皆さんは、何の練習から始めるのでしょうか。特に自分が中学校の時の体育授業を思い出してみてください。私は、最初にアンダーパス、次にオーバーパス…という順番を思い出します。アタック練習はあまりした記憶がありません。

先述の若手教師は、「アタック練習から始めます」と言っていました。バレーボールという競技の面白さの1つはアタックです。豪快に打ったアタックが「バシン！」と相手コートに落ちれば、とても気持ちのよいものです。まさしくバレーボールの醍醐味です。そのアタックを初めに練習するそうです。そこでバレーボールの面白さを味わうとともに、

アタックを打つために必要なことやアタックを打たれないために必要なことは何か？を考えるようになります。アタックを打つためには、的確なトスが必要です。アタックを拾うためには、レシーブが必要です。アタックされないようにするために、ブロックをしたり、フォーメーションを考えたりすることも必要になります。バレーボールの授業において、どのような技術や戦術が必要なのか、生徒自ら考えて練習するようになります。

私が教わったのは40年以上も前のことですので、当時の体育の先生を悪く言うつもりはありませんが、かつては、アンダーパスなどの基本技術から順番に教わるのが授業の流れだったように思います。現代では、「子ども達が課題を見つけ、主体的に活動し、課題を解決していく」授業づくりが行われています。このような学習活動をするのが、変化の激しい現代社会で生きていく力となります。

古い考えにとらわれていたら発展しないと思いました。「今までもしていたから」「ずっとこのようにしていたから」では新たなものは生まれなかったり、時代に合わなかったりすることもあります。固定観念を壊し、新たな発想を取り入れることも必要だと思いました。

### ※ 言葉の使い方と逆転の発想

固定観念とは少し違う話ですが、上記の「発想の転換」に少し近い話を紹介します。昨日ラジオで聞いた話です。

オリエンタルラジオというお笑いコンビがありますが、そのうちの一人、中田敦彦さんがSNS等で発信している「言葉の使い方」に関することです。中田さんは、「否定語を自分の辞書から消す」と発信しているそうです。「否定語」を使わないことで、前向きな気持ちになり、前向きな生活をするができる、と中田さんは考えています。



例えば、困った時の「どうしたらいい？」は、「何とかなる」と言い換えるそうです。同様に、「大変だ！（大変なことが起きた）」は「大したことじゃない」、「疲れた」は「よく頑張った」と言い換えるそうです。このように言い換えることで、自分自身が前向きになり、次への活力が生まれます。マイナス的な言葉を使うと、どうしても気持ちも下向きになります。

言葉の使い方次第で、気持ちは前向きにも後ろ向きにもどちらにもなります。私たち教師は、言葉を上手に使う力が特に必要です。自分が発する言葉を振り返り、発想の転換をして、皆に活力を与える言葉が使えるようになりたいと思いました。

